



桑名市教育委員会イメージ  
キャラクター「くわっぽ」

# かわら版

NO. 17

## 多度地区小中一貫校整備事業『ワークショップ』開催報告

9月25日に、多度まちづくり拠点施設（第1・2・4教室）にて、ワークショップを開催（参加者21名）し、地域の皆様から、新しくできる多度小中一貫校の学校施設についての夢や願い等をお聞かせいただきました。

当日は、検温・マスク・手指消毒などを徹底し、席ごとに飛沫拡散防止パネルを設置して、しっかりとコロナ感染症対策を実施したうえで、A・B・Cの3グループに分かれて、参加者の皆様には活発な議論・ご意見をいただきました。

各グループの主なご意見・内容は次のとおりです。

### Aグループ

- ・校舎の配置は、グラウンドへの移動動線などを考えると一番利用しやすい場所に建てたい。日当たりを考慮して東西配置がよい。
- ・「地域コミュニティとの関わり」の観点から、誰もが使いやすい学校にしてほしい。
- ・猛暑などで水泳の授業が出来ないこともあったので、できればプールは屋内が良い。
- ・地域での活動に利用できる講堂や体育館もあるといい。
- ・保健室や図書室の充実、校舎の中も「ゆとり」があるとよい。
- ・自然と触れ合える場所がほしい。その一方で、広大な敷地になるため、危険がないように、死角がない設計としてほしい。



### Bグループ

- ・子ども達の負担を考えて、校舎は、どこの門から通っても等しい距離にあると良い。敷地内に高低差があるが、できるだけ段差は無くしたほうがいい。
- ・体育館は、子ども達が運動できる広さを確保して、社会体育施設としても機能するように、建て方を工夫して整備してほしい。
- ・進入路の検討が重要。十分な道路幅の確保、歩車分離してほしい。
- ・プールは、学校内にあると良いとは思いますが、授業に支障がないなら、必ずしも学校内に無くてもいいのではないかと。
- ・子どもの遊び場を確保したい。目の届くところに校舎を配置してほしい。校舎内はコロナ対策を含めて十分な広さがほしい。



## Cグループ

- 「安全面の確保」が最重要。通学路の安全性確保だけでなく、工事中の安全確保も必要。北側の通学路動線も配慮が必要。
- 県道は、小山台方面からの通学を中心に7割の子どもが横断するため、事故が起きないように安全性を十分に考慮してほしい。
- 学校は災害時には避難所となるため、昇降口は複数あるといい。
- 校舎は南向きがいい。子どもたちの動線にも配慮してほしい。
- プールは設置してほしいという意見があった一方、校内にあると維持管理が大変である。
- 民間のインストラクターの指導により泳力をつけてほしい。



今後も、皆様から頂いたご意見も参考にしながら、学校施設の役割・機能なども踏まえて、新たに検討していきます。

なお、会議概要は桑名市ホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。

桑名市ホームページ：[www.city.kuwana.lg.jp](http://www.city.kuwana.lg.jp)

ホーム→ 市政→教育委員会→多度地区小中一貫校→令和3年度・ワークショップ

第2回ワークショップ『テーマ：地域の人から見た“学校施設・設備の役割について”』を11月14日（日）10：00～多度まちづくり拠点施設で開催いたします。

また、「第1回は日程の都合で参加できなかった。」というお声もいただいておりますので、第2回からの新規参加申込みを承ります。希望される方は、下記連絡先までお問い合わせください。

## 多度地区小中一貫校整備事業『ボーリング調査』について

10月6日から12月末頃まで、学校建設予定地の地質調査（ボーリング調査）等を実施しております。

ボーリング調査とは、実際に現地で穴を掘って地盤の固さや土の種類などを調べるための調査のことです。

なぜ、このような調査をするかということ、軟弱な地盤では学校のような大きな建物を支えることができないので、災害にも負けない堅固な学校を建てるために、地盤の状況や、杭を打つ場合にどれくらいの深度まで入れる必要があるかを調べるためです。

子ども達が安心して通える安全な学校を作っていきますので、調査期間中は、地域の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

